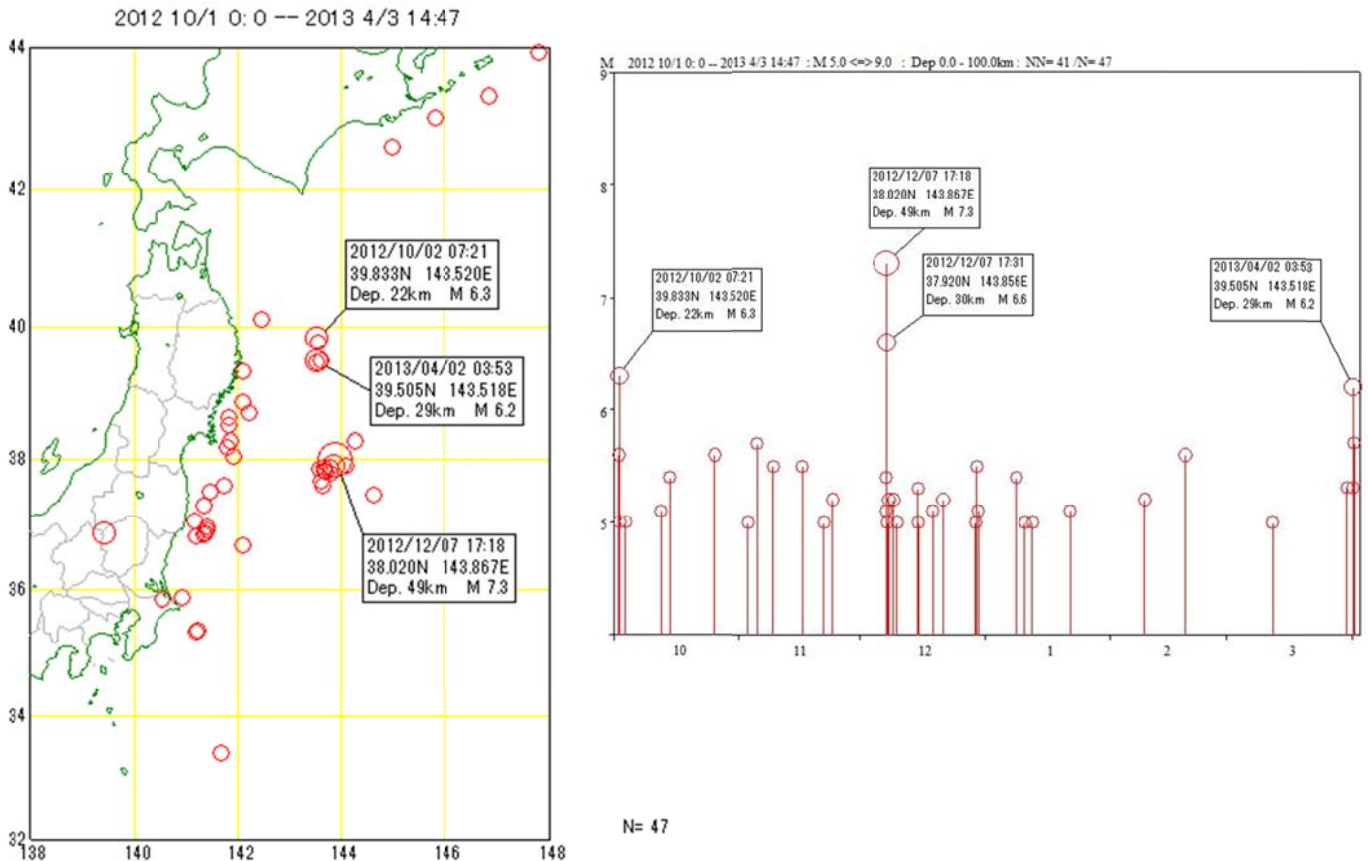


日本海溝沿い（日本海溝の東側；アウターライズ）の地震活動

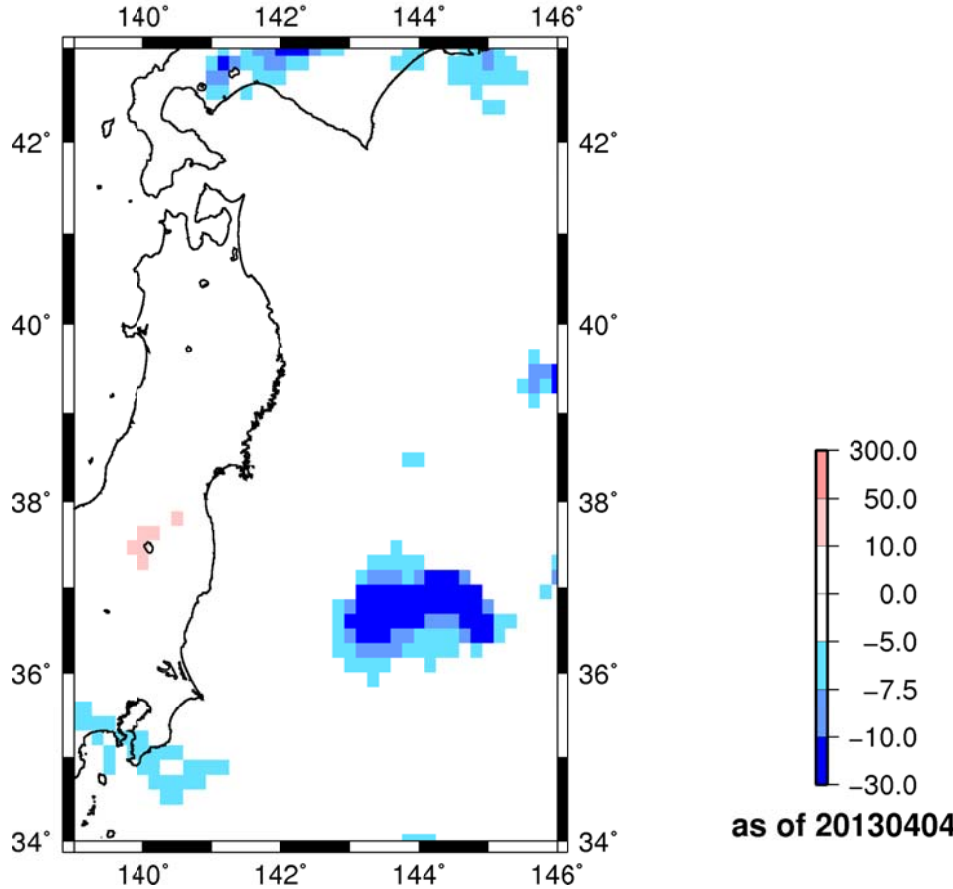
3 1 1の後、「アウターライズ地震」という言葉がメディアを賑わすようになりました。3 1 1であまりに大きな断層運動が発生したため、その帳尻を合わせるように日本海溝のさらに東側の太平洋プレート内部が破壊する地震です。このアウターライズ地震の特徴は地震の規模に比較して、津波が大きいという事です。昨年12月7日に発生した地震（久しぶりに津波注意報の出た地震がこのアウターライズ地震でした）がまさにそれに当たります。もっとも有名なアウターライズ地震は昭和8年の昭和三陸地震です。この地震では死者・行方不明者合わせて3000名以上という被害となりました。



上の図は2012年10月以降のマグニチュード5以上の地震の空間分布とその発生の時系列です。4月2日に久しぶりに岩手県沖でまとまった余震活動が観測されましたが、基本的に余震活動は順調に減衰しているといえます。しかしながら、次ページの「地下天気図」を用いた地震活動度解析から、福島県沖で顕著な地震活動の静穏化現象が検出されました。3 1 1以降、地震発生パターンが大きく変わってしまったため過去の経験則が適用しづらい状態が続いており、この解析は3 1 1以降の比較的短期的な地震活動の解析（ゆらぎ）です。しかしながらこのような顕著な異常は初めて観測されたものです。

福島沖は福島第一原発の問題もあり、以前からこの津波地震が極めて大きな懸念材料とされています。もしアウターライズの地震のマグニチュードが8クラスですと、再び福島に10mを超える津波が襲来します。福島第一では汚染水の問題や4号機の燃料保存プールの問題も未解決です。現在静穏化は進行中であり、発生はこの静穏化が終了してからの可能性が高いと考えてはおりますが、十分注意して監視する必要があると考えています。

下の図は 2013 年 4 月 4 日の時点の地下天気図です。青い領域が地震活動が非常に低下(静穏化)している領域です。なおこの解析は東北沖の地震活動に焦点を当てて解析したものです。



下の図は北緯 36.8 度、東経 143.5 度の地点の地震活動 (RTM 値) の時間変化 (2012 年 1 月 1 日から 2013 年 4 月 3 日まで) です。非常に顕著な静穏化 (上の図で青い領域) が現在進行中であることがわかります。

